



今日のトピック 原油価格は新型コロナ前の水準を回復（2021年2月）
ワクチン普及による経済正常化期待と協調減産が背景

ポイント1

原油価格は1年1カ月ぶりに60ドル台を回復

WTIは、今年に入って24%上昇

- 北米の代表的な原油指標であるWTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）先物価格は、今年に入り上昇基調を強め、2月16日には、1バレル＝60.05米ドルで取引を終了し、新型コロナ前の水準に戻りました。
- 新型コロナワクチン接種の普及により経済活動が正常化に向かい、原油の世界需要回復期待が強まっています。そのような中、サウジアラビアが日量100万バレルもの自主的な追加減産を表明したことに加え、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の主要産油国で構成するOPECプラスが協調減産を続けるスタンスを維持していることから、昨年末からの上昇率は24%に達しています。



ポイント2

OPECは2021年の需要予測をやや上方修正

- 2月11日に公表されたOPEC月報2月号によると、2020年の世界の原油需要実績見込みは前月から25万バレル上方修正され、日量9,026万バレルとなりました。一方、2021年の需要予想は日量9,605万バレルと、前月の同9,591万バレルから若干増加しました。前年比では同579万バレル増加すると予想しています。
- OPECは、「米国を中心に世界経済全体が回復するものの、ワクチン接種の遅れや変異株の出現が懸念」としています。

【世界の原油需給見通し】

	2019年	2020年	2021年
世界需要	100.0	90.3	96.1
供給	99.8	93.4	96.1
非OPEC	70.5	67.8	68.5
OPEC	29.3	25.7	27.5
需給バランス	▲0.2	3.2	0.0

- (注1) 需給バランス＝供給－需要。
- (注2) 単位は百万バレル（日量）。
- (注3) 2019年は実績。2020年は実績見込み。2021年はOPECによる予想。ただし、2021年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。
- (注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。
- (出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

需要回復を背景に堅調な展開

- 今後は、原油需要回復に伴いOPECプラスの減産縮小や米国シェールオイルの生産拡大が視野に入りますが、懸念されていた欧米での新規感染者拡大も落ち着きを見せ始めており、ワクチン接種も進捗が見られています。米国の追加経済対策も期待されており、需要回復を背景に原油市場は堅調に推移しそうです。
- 但し、このまま原油価格の上昇が続くと、インフレ期待の高まりを通じて長期金利の上昇を招き、堅調な株式市場にとって逆風となる恐れがあります。今後の金融市場を見るうえでも、原油価格の動向は重要となっています。

ここもチェック!

2021年2月10日 先行きを占う、3つのシナリオ（吉川レポート）
2021年2月 8日 米雇用者数は予想を下回るも、力強い米株市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。